

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：74306

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03227

研究課題名(和文) 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究

研究課題名(英文) Multidisciplinary Collaborative Research on Green-glazed Pottery and Tile Production in the Heian Period

研究代表者

石井 清司 (ISHII, Seiji)

公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員

研究者番号：60768901

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、平安期を特徴づける緑釉陶器・緑釉瓦について、考古学と文献史学、理化学が協働することにより、知見を深化することができた。その具体的な方法は、考古学の中でも陶器研究と瓦研究相互の研究者が議論すること、蛍光X線を用いた胎土の分析、測色装置を用いた色調の分析などであり、それらの方法論の総合化を図った。その最も端的な成果は、平安京の後背地にある洛北・洛西・篠窯の緑釉陶器・緑釉瓦生産の実態を明らかにしえたことである。また協働研究の成果は、報告書として刊行したほか、一般市民向けのシンポジウムを開催し、社会への還元を図った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究が実施した多分野協働型研究により、陶磁器と瓦を総合的に捉える視点が形成され、また自然科学分野との協働により、一層の成果が得られるであろうという見通しが得られた。平安時代の緑釉陶器・瓦に関する知見が深化されたのみならず、本研究により他の時代の資料に関しても援用可能な方法論が形成されたと考える。また平安時代は一般的に、日本国民の関心が高い時代であると考えられる。この平安時代を象徴する緑釉陶器・瓦に関する理解を深めたことで、市民が歴史に興味をもつ材料を提供できるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：In this study, we were able to deepen knowledge by archeology and documents historical study, physics and chemistry collaborating about Green-glazed pottery and tile characterizing the Heian period. The concrete method were : arguing the researcher between pottery study and tile studies, soil analysis using the fluorescence X-rays, and analysis of the color. The most straightforward result is to have been able to clarify the actual situation of the Green-glazed pottery and tile in the kiln around Heian-kyo. In addition, we published the result of the collaboration study as a report and returned results of research to the society to hold a symposium for citizens.

研究分野：考古学

キーワード：平安時代 緑釉 多分野協働型研究

1. 研究開始当初の背景

(1) 古代都城については、その成立の背景や変遷過程、都市プランや土地利用などの研究は進展しており、その全体像が描かれつつある。一方、都城の生活に直結した生活空間・生活様式・そこで使われた道具類、建物の構造や建築部材などの研究は、その変遷や使用変化などの検討は進んでいるものの、その全体像が描かれていない感がある。

(2) 都城では京内の生活実態とともに、都城を支え補完する後背地として重要な役割を果たすものに寺社や墓域などの宗教的施設、宮・京内の造営や生活に直結した瓦埴類や土器類の生産に関わる窯業遺跡群がある。

京内の生活を支える土器類の研究は土師器・須恵器・陶磁器などの変遷や使用事例などの検討が進み、瓦埴類の研究は瓦当文様や成形技法からみた時期変遷の検討は進められているが、それら土器類・瓦埴類の生産実態を統合した調査・研究事例が少なく、同様の窯業遺跡群でありながらも個別事例の検討に止まっている。

2. 研究の目的

(1) 桓武天皇が長久の都として選定した平安京では、発掘調査によって都の造営や生活を支える須恵器・瓦生産に関連した調査例が数多くある。平安時代初期の平安京造営当初の瓦や鉛釉陶器を含む須恵器の生産は、都の背後にある京都市北区洛北窯跡群を中心におこなわれ、その一部を補完する形で大山崎町大山崎瓦窯、吹田市吉志部瓦窯で生産されている。平安宮・京の造営事業が一段落して以後、瓦生産は停滞するが、鉛釉陶器を含む須恵器生産は洛北窯跡群に続いて京都市西京区洛西窯跡群、亀岡市篠窯跡群、東海窯・近江窯へと生産地が広がり、瓦生産と須恵器生産が分離される傾向にある。

(2) 平安時代初期の大極殿や豊楽院に葺かれた緑釉瓦、当時の最高級技術で焼成された緑釉陶器は特定の窯跡群で生産されている。緑釉瓦・緑釉陶器は無釉瓦・土器素地に入手しがたい鉱物を調合して釉薬を作るもので、釉薬の入手・調合・焼成技術など官主導の元で生産されたものである。この緑釉瓦・緑釉陶器の生産遺跡や消費地での状況を検討することで、都城の後背地に展開する窯業生産とそれを支えた都城との有機的関連を明らかにし、その史的意義を論じることを目的とする。

3. 研究の方法

古代日本の窯業生産は、古墳時代から続く須恵器のほか、鉛を主体とした釉薬を施した鉛釉陶器、古代寺院建築に使用される瓦が焼成されるようになる。わが国における鉛釉陶器は、初期の飛鳥時代には緑釉単彩(白鳳緑釉)であるが、奈良時代には唐三彩の技術を受けて多彩陶器(奈良三彩)が生まれ、平安時代初期には二彩から単彩(緑釉単彩・平安緑釉陶器)にかわる。その器種構成は仏教的要素を帯びた飛鳥～奈良時代、喫茶に関連した器種が生まれ平安時代初期があり、前期以降は椀・皿などの供膳具が主体で、その量産化とともに生産地の拡散が顕著となる。無釉瓦に緑釉を施した緑釉瓦は、奈良時代後半期に平城宮の一回で使用されるものの宮殿の主要建物の使用には至っていないが、平安宮では宮の主要建物である大極殿・豊楽殿のみで使用され、緑釉瓦屋根が宮殿を象徴する建物として扱われるようになる。

本協働研究では、この緑釉陶器と緑釉瓦を研究対象として、官営的な手工業生産の変容過程やその史的背景を明らかにする。

(1)【(A) 既往の発掘調査の成果】 平安京近郊の緑釉陶器生産遺跡は、近年、京都府亀岡市篠窯跡群を中心に分布および発掘調査がおこなわれ、その様子が明らかになりつつあるが、篠窯跡群以前の洛北・洛西窯跡群での調査例が少なく、新たな知見が限られている。このために1980年以降、2000年にかけて分布・発掘調査がおこなわれた洛北(西賀茂窯・栗栖野窯・本山窯など)、洛西(石作窯・小塩窯)、吉志部窯、近江(春日北窯・作谷窯)などの既往の発掘調査成果を新たな観点・手法で再調査する。

(2)【(B) 緑釉陶器と緑釉瓦の総括的比較研究】 緑釉陶器の研究は、1990年代に新たな生産窯が発掘調査で確認されるとともに、平安京や地方官衙等の消費地での調査成果によって、その変遷や生産地と消費地の関係などは明らかになりつつある。また平安宮・京に係る瓦研究はその瓦工房や瓦文様、成形技術の変化など瓦生産全般の研究は進んでいるものの、緑釉瓦を対象とした研究は十分とはいえない。平安時代の高級品である緑釉陶器と平安宮の主要建物に葺かれた緑釉瓦は、同じ鉛釉を施す製品でありながら、その用途が異なることから別個に扱われてきた傾向にあるが、新たな視点で緑釉瓦と緑釉陶器生産の関係性を検討する。

(3)【(C) 理化学的分析の推進と方法論の検証】 平安京近郊の洛北・洛西・篠窯跡群のほか、近江・東海・長門地域で生産されている緑釉陶器は、その生産地と消費地の同定や時期決定などは考古学知見よる部分が多く、理化学分析などの客観的データの裏付け・検証が必要である。本協働研究でもこれまでに研究・試料分析が進められている蛍光X線分析による胎土分

析とともに、緑釉瓦・緑釉陶器が発色する色調を客観的に分析することでより生産地と消費地の関係が明らかになると考えている。

(4)【(D)協働型研究会の開催・(E)研究成果の公開】本協働研究は、緑釉陶器を含めた土器・陶磁器研究者、都城・寺院に係る瓦類の研究者、文献史料研究者、理化学分析の研究者など専門分野を異にする研究者で構成されている。これは専門分野での成果とともに、専門分野と越えた異なった視野での発案を期待して構成している。その研究会の成果をホームページでの公開、研究成果を国民に広めるために一般参加者を交えたシンポジウムを開催するとともに、再調査した石作窯・小塩窯の緑釉陶器資料、平安京で出土した緑釉瓦を含めて特別展示を企画する。

4. 研究成果

【(A)既往の発掘調査の成果】では石作窯・小塩窯は既調査資料の再整理の結果、石作窯が供膳具を中心に量産化された「平安緑釉陶器」の初期段階に資料が石作窯であり、須恵器とともに緑釉陶器を焼成するために考案された「小型三角窯」の最初期の窯であり、小塩窯は石作窯に後続する資料であることが明らかとなり、これら資料を現状の調査基準に照らして新たに遺構・遺物の凶化・計数分析を進めるとともに、類例の少ない窯道具の検討、釉薬の蛍光X線分析、鉛同位体分析などの基礎データを得た。

【(B)緑釉陶器と緑釉瓦の総括的比較研究】では、平安京造営に係る官窯であり、瓦とともに多彩陶器を焼成した洛北窯跡群から、洛西窯跡群では瓦生産から切り離して須恵器・緑釉陶器主体の窯跡群に変化していることが明らかとなる。緑釉瓦生産は洛北窯跡群の栗栖野瓦窯と大阪府吉志部瓦窯での窯構造・緑釉瓦の比較とともに、多彩陶器や窯道具の存在、緑釉瓦と緑釉陶器の釉薬成分の比較とともに、施釉を施す二次焼成窯の生産体制について検討できた。

【(C)理化学的分析の推進と方法論の検証】では、再整理した洛北窯跡群のなかの石作窯・小塩窯の試料ほか、洛北窯跡群の緑釉瓦、平安時代後期の緑釉瓦の比較、近江・篠窯の素地と緑釉陶器試料の蛍光X線分析を実施し、産地での胎土に違いを検討できた。また前述の緑釉陶器・緑釉瓦のほか、東海熊ノ前窯・住吉窯を含めた色調分析をおこない、地域による色調による違いが指摘できるようになった。

【(D)協働型研究会の開催・(E)研究成果の公開】では2回に亘って研究会を実施するとともに、平安京の後背地にある洛北・洛西・篠窯跡群の緑釉陶器・緑釉瓦生産の実態を明らかし、石作窯での陰刻文様の比較から唐文化との関連などを検討し、その成果を京都文化博物館との共同開催による「京の翠と技の粋 - 緑釉陶器と緑釉瓦 - 」と題してシンポジウム(一般参加者196名)を開催するとともに、展覧会を計画した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計20件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 石井清司	4. 巻 -
2. 論文標題 緑釉陶器窯について	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 61-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井清司	4. 巻 -
2. 論文標題 小型三角窯の展開 - 亀岡市篠窯跡群の場合 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 79-94
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋照彦	4. 巻 -
2. 論文標題 洛北・本山官山遺跡の基礎的検討 - 石作窯成立前夜の様相 -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田邦和	4. 巻 -
2. 論文標題 篠窯跡群黒岩3号窯跡ほかの採集遺物	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 113-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 網 伸也	4. 巻 -
2. 論文標題 平安前期の緑釉瓦生産	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 127-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植山 茂	4. 巻 -
2. 論文標題 平安京の緑釉瓦	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 135-144
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 純	4. 巻 -
2. 論文標題 緑釉陶器・緑釉瓦の胎土分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 145-158
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中由理	4. 巻 -
2. 論文標題 緑釉陶器・緑釉瓦の色調分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	6. 最初と最後の頁 159-176
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋照彦	4. 巻 -
2. 論文標題 日本古代の窯業生産 土器・陶磁器と瓦せんから探る歴史像	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 摂関期の瓦陶兼業窯をめぐる多面的研究	6. 最初と最後の頁 391-414
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中由理	4. 巻 2019
2. 論文標題 施釉陶器の色調計測 - 現代の陶磁器を対象として -	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 元興寺文化財研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 45-58
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井清司	4. 巻 134
2. 論文標題 小型三角窯の復元-現代によみがえる緑釉陶器窯	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 土車	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植山茂	4. 巻 134
2. 論文標題 石作緑釉窯跡	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 土車	6. 最初と最後の頁 1
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石純	4. 巻 249
2. 論文標題 神明遺跡・刑部遺跡出土遺物の胎土分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡山県埋蔵文化財発掘調査報告	6. 最初と最後の頁 926-930
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 純	4. 巻 2016
2. 論文標題 鹿田遺跡出土須恵器の胎土分析	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 岡山大学埋蔵文化財調査研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 34-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 純	4. 巻 121
2. 論文標題 凌雲寺跡出土遺物の胎土分析	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 山口市埋蔵文化財調査報告	6. 最初と最後の頁 173-203
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 高橋照彦	4. 巻 (なし)
2. 論文標題 東北地方北部出土の緑釉陶器とその歴史的背景	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 尾駸の駒・牧の背景を探る	6. 最初と最後の頁 63-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中由理	4. 巻 (なし)
2. 論文標題 色調分析方法の可能性について - 二次微分スペクトルを用いて -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『和の考古学』藤田和尊さん追悼論集	6. 最初と最後の頁 印刷中
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中由理	4. 巻 (なし)
2. 論文標題 第7章 緑釉陶器の測色とその分析 - 西山1号窯出土品とその比較資料 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 古代日本の手工業生産をめぐる諸問題	6. 最初と最後の頁 195-214
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 石井 清司	4. 巻 19
2. 論文標題 緑釉陶器生産の再検討 : 平安京近郊窯を中心にして	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 洛北史学	6. 最初と最後の頁 90-112
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 白石 純	4. 巻 142
2. 論文標題 須恵器の胎土	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 季刊 考古学	6. 最初と最後の頁 28-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 網 伸也
2. 発表標題 歴史考古学の黎明と藤澤一夫
3. 学会等名 元興寺文化財研究所 秋季特別講演会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中由理
2. 発表標題 施釉陶器色調計測の基礎的研究
3. 学会等名 日本文化財科学会第36回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石井清司
2. 発表標題 緑釉陶器窯の構造
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粋 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 市川 創
2. 発表標題 石作窯・小塩窯について
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粋 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 高橋照彦
2. 発表標題 平安京周辺における緑釉陶器生産 - 石作窯の特質をめぐって -
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粹 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 網 伸也
2. 発表標題 平安前期の緑釉瓦生産
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粹 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植山 茂
2. 発表標題 平安京の緑釉瓦
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粹 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白石 純
2. 発表標題 緑釉陶器・緑釉瓦の胎土分析
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粹 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中由理
2. 発表標題 緑釉陶器・緑釉瓦の色調分析
3. 学会等名 シンポジウム「京の翠とわざの粹 - 緑釉陶器と緑釉瓦」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 白石 純
2. 発表標題 中世土器研究における胎土分析 - 蛍光X線分析法による分析事例から -
3. 学会等名 日本中世土器研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 網 伸也
2. 発表標題 平城京～平安前期の瓦窯 都城造営における瓦生産遺跡の構造的変遷
3. 学会等名 窯跡研究会第17回研究会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 石井清司・高橋照彦・木立雅朗ほか
2. 発表標題 京都府亀岡市篠窯跡群 「小型三角窯」の復原と焼成実験
3. 学会等名 日本考古学協会総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 高橋照彦
2. 発表標題 古代末期における窯業生産の変容 丹波・篠窯の須恵器・瓦・緑釉陶器を中心に
3. 学会等名 九州史学会大会（招待講演）
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 市川創
2. 発表標題 「緑釉単彩陶器」再論
3. 学会等名 都城制研究会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 吉村武彦、吉川真司、川尻秋生、市 大樹、馬場 基、網 伸也、李 炳鎬	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 324
3. 書名 古代の都	

1. 著者名 菱田哲郎、吉川真司、大脇潔、高橋照彦、高正龍、堀裕、黒羽亮太、古閑正浩、根立研介、小澤毅、平松良順、藤岡穰、西田敏秀、上杉和央、網伸也、安村俊史、近藤康司、吉野秋二、西本昌弘、三舟隆之	4. 発行年 2019年
2. 出版社 思文閣出版	5. 総ページ数 512
3. 書名 古代寺院史の研究	

1. 著者名 田中由理	4. 発行年 2020年
2. 出版社 元興寺文化財研究所	5. 総ページ数 54
3. 書名 施釉陶器色調計測の基礎的研究	

1. 著者名 高橋照彦・谷川章雄・佐野勝宏・小林謙一・吉田 広・石川日出志・辻田淳一郎・眞保昌弘ほか	4. 発行年 2018年
2. 出版社 雄山閣	5. 総ページ数 304
3. 書名 日本考古学・最前線	

1. 著者名 高橋照彦ほか	4. 発行年 2017年
2. 出版社 勉誠出版	5. 総ページ数 573
3. 書名 日本古代交流史入門	

1. 著者名 石井清司・市川 創・網 伸也・植山 茂・白石 純・高橋照彦・田中 由理・新田和央・降幡順子・山田邦和	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人 古代学協会	5. 総ページ数 182
3. 書名 平安期緑釉陶器・緑釉瓦生産の多分野協働型研究	

1. 著者名 石井清司・市川 創・網 伸也・植山 茂・白石 純・高橋照彦・田中 由理・新田和央・降幡順子・山田邦和・京都大学考古学研究会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 公益財団法人 古代学協会	5. 総ページ数 204
3. 書名 石作窯・小塩窯発掘調査報告	

〔産業財産権〕

〔その他〕

「緑釉科研」ホームページ http://www.greenglazed.sakura.ne.jp/

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	植山 茂 (UEYAMA Shigeru) (00106642)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究分担者	高橋 照彦 (TAKAHASHI Teruhiko) (10249906)	大阪大学・文学研究科・教授 (14401)	
研究分担者	山田 邦和 (YAMADA Kunikazu) (30183685)	同志社女子大学・現代社会学部・教授 (34311)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	網 伸也 (AMI Nobuya) (60708048)	近畿大学・文芸学部・教授 (34419)	
研究分担者	白石 純 (SHIRAISHI Jun) (70434983)	岡山理科大学・生物地球学部・教授 (35302)	
研究分担者	市川 創 (ICHIKAWA Tsukuru) (80372134)	公益財団法人古代学協会・その他部局等・客員研究員 (74306)	
研究協力者	岡島 陽子 (OKAJIMA Youko)	京都大学大学院 博士後期課程	
研究協力者	新田 和央 (NITTA Kazuo)	京都市文化市民局	
研究協力者	村野 正景 (MURANO Masakage)	京都文化博物館	
連携研究者	吉川 真司 (YOSHIKAWA Shinji) (00212308)	京都大学・文学研究科・教授 (14301)	
連携研究者	田中 由理 (TANAKA Yuri) (70611614)	公益財団法人元興寺文化財研究所・研究部・研究員 (84601)	